

## 平成23年度麻布大学同窓会茨城県支部総会

昨年の東日本大震災は、東北3県に加えて、茨城県にも甚大な被害をもたらしました。当支部会員には幸いにして人的被害はなかったものの、避難所への一時避難を余儀なくされたり、家屋等に大きな被害を受けた会員も多数にのぼりました。こうした状況下、同窓会本部からは、被災会員に対するご丁寧な「お見舞い金」を頂戴するなど、手厚いご支援を頂きましたこと、本稿をお借りして心から御礼を申し上げます。お陰様で、被災会員は、それぞれ懸命に復旧復興に取り組んでいるところです。

年も改まり、震災復興も緒に就いた2月25日（土）、水戸市内のホテルにおいて、茨城県支部総会を開催しました。総会では、田原支部長（昭和33年卒）の議事進行の下、事業及び決算報告等がなされ、原案が承認されました。続いて、本部から頂戴した被災会員に対する「お見舞い金」の支給の経緯等について報告がなされました。この後、同窓会本部からご臨席を賜った武藤眞先生（外科学第2教室）に祝辞とともに大学の近況について、タイトな持ち時間にもかかわらず、スライドを交えてご講演いただきました。

当地、水戸の「偕楽園」は、震災のため大きな被害を受けましたが、2月からの「梅祭り」にあわせ、復旧工事が終了した直後です。武藤先生には、ゆっくりと観梅を楽しんでいただきたかったところですが、あいにくの氷雨のため、慌ただしい見物となってしまったことは、大変残念でした。

総会後は、懇親会が開かれ、出席者全員から、震災後の近況等について報告を頂きながら、母校や淵野辺・矢部の変貌振り、学生時代のちょっと言えない昔話などに大いに花を咲かせました。当日は、風邪などによる急な欠席者もありましたが、先生を含め22名の出席者があり、昨年卒業の新会員を含む老若男女全員で「記念祭の歌」や「寮歌」を斉唱するなど、「麻布大学」の同窓として一体感を共有し、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。次回の同窓会への全員参加を強く約束し、麻布大学と同窓会のますますの発展を願って、万歳三唱の後、散会となりました。

今回は、久々に女性会員2名の参加があり、一段と華やかさを増した感がありました。次回は、若い方や女性にも積極的な参加を呼びかけていきたいと考えています。

最後になりますが、麻布大学及び同窓会のますますの発展と同窓生のご健勝を祈念申し上げます。

（昭和54年卒 鈴木睦夫 記）

